

項目	観点	教科書名	
		新編 新しい地図帳(2・東書)	楽しく学ぶ 小学生の地図帳(46・帝国)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるために、どのように配慮されているか。	・A4判のため、多くの資料(地図・グラフ・写真)をゆとりをもって掲載し、児童が我が国の国土に対し理解を深められるよう工夫している。 ・世界地図や日本全図を3ページ見開きで大きく掲載し、概観したり国や地域の位置関係を捉えやすいようにしたり、示し方が工夫されている。 ・世界全体の面積(南極は含んでいない)、人口、人口密度、日本への輸出額、日本からの輸入額についても掲載され、日本と比較して世界全体から把握できるようにしている。 ・豊田市など教科書で扱われている場所が拡大されており、利用しやすい。 ・日本の歴史と文化について、「むかしの国」の主題図と関連ある多くのイラストや世界文化遺産の写真が掲載され、我が国の歴史への理解が深められるようになっている。	・教科書と同じサイズの中に適切な量の地図・グラフ・写真を掲載していて、児童が我が国の国土に対し理解を深められるように工夫されている。 ・日本の都道府県の特徴を導入に配置し、我が国に対して興味・関心を児童に抱かせるような配慮がされている。 ・「自然の統計」では、日本の主な山や川、島について、大きさを示し、世界のものと比較がしやすい工夫が見られる。 ・「日本の歴史」について、「年表」「江戸時代の交通路」「むかしの境界」「歴史の舞台になった場所」の主題図の他に、写真資料、鎌倉の様子などの図など豊富な資料が用意され、我が国の歴史への理解が深められるようになっている。 ・江戸と東京の比較ができる。
	○国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うために、どのように配慮されているか。	・日本と世界の自然の頁に、日本と世界の主な島を比較する資料があり、択捉島や国後島を掲載し、我が国固有の領土であることを明確にしている。 ・巻末に日本の過去の自然災害や防災の写真を掲載し、地域の安全を守る態度を育てる工夫をしている。	・日本とそのまわりの頁に、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島、南鳥島の詳しい説明があり、日本の国の範囲について詳しい説明を載せている。択捉島についても日本の領土であることを明確にし、国民としての意識をもたせるようにしている。 ・「地震・火山の災害と防災」の頁が見開き2頁にわたって紹介され、日本の火山と地震の分布や世界の地震分布の主題図と写真、さらに、災害を防ぐ工夫と防災マップについて提示され、火山・地震国といわれる我が国の国民として自然災害について関心をもち、災害に備える大切さを理解できるよう工夫している。
2 内容の程度及び取り扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○学び方や調べ方を身に付けることについては、どのような工夫が見られるか。	・陸の高さを8色、海の深さを5色で表し、地形の特徴がとらえやすいようになっている。 ・地図帳で日本地図に使われている縮尺は、400万分の1、100万分の1、50万分の1(首都圏及び京都中心部については、5万分の1)の4つで表し、比較しやすく、学びやすい配慮がされている。	・産業の記号は、イメージしやすい記号となっていて理解しやすく配慮されている。 ・土地利用は5色、陸の高さは4色、海の深さは4色を使って活用しやすいよう工夫されている。
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○社会的事象に対する関心を高め、主体的な学習を促すために、各種の基礎的資料の効果的な提示の仕方に、どのような工夫が見られるか。	・「地図帳の使い方」で、地図帳の活用の仕方について丁寧に説明してあり、主体的な学習を促すための工夫がされている。 ・オリンピックとワールドカップ開催地の地図資料があり、児童が地図に関心をもつことができるようになっている。 ・日本と世界の主な山・川・湖・島を紹介する頁(P73～74:日本と世界の自然)では、写真やカラーで立体的なイラストを用いており、児童が親しみをもちやすい。 ・統計資料は2011年から14年のものが多く、やや古い。	・「地図帳の使い方①・②」で、地図の成り立ちから、地図活用の仕方等まで、丁寧に説明してあり、主体的な学習を促す地図の活用ができるよう配慮されている。 ・地図や文字が大きく、見やすいので、児童が調べ学習を行いやすいと思われる。 ・統計資料は2011年から14年のものが多く、やや古い。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○個に応じた指導の一層の充実を図るために、補足的な学習や発展的な学習などについて、どのような工夫が見られるか。	・どの頁にも、キャラクターによる問いかけの吹き出しがあり、地図を見る視点や観点になっており補足的な学習ができるとともに、作業によって気づき、発展的な学習につながる構成になっている。 ・どの頁にも、地図記号表記の頁に戻れるように囲み書きがある。	・ところどころの頁に、キャラクターの問いかけの吹き出しがあり、地図を見る視点となっている。 ・部分的な地図の拡大図があり、その土地や自然の様子が理解しやすいように工夫されている。

3 構成・配 列・分量	○一般図や主題図、資料等の構成や配列、分量には、どのような特色があるか。	・日本に関係する地図P1～50(50頁扱い)、世界に関係する地図P51～62(11頁扱い)、関連資料P63～94(32頁扱い)とゆとりのある頁構成になっている、個々の資料に注目できるようにしている。 ・東京については、「首都東京」の頁で見開き3頁の平面図として取り上げ、首都とその周りというような形で表し、イラストや吹き出しを使い、様子が分かるよう配慮されている。 ・京都市中心部、奈良市中心部など見開き平面図で取り上げ、写真も掲載されているので、歴史的な視点でとらえやすいようになっている。	・日本に関係する地図P1～50(50頁扱い)、世界に関係する地図P51～64(14頁扱い)、関連資料P65～86(22頁扱い)と世界に関係する頁が充実している。 ○首都東京については、「東京都の中心部」の地図とともに「空から首都・東京を眺めてみよう」の頁で鳥瞰図も掲載し山地と平地の土地利用が分かるよう表したり、イラストを取り入れたりして工夫して表現されている。 ○京都盆地や奈良盆地の拡大図があり、歴史学習と関連して学ぶことができる。
	○一般図や主題図、資料等の相互の関連については、どのような特色があるか。	・学習に大切な細かなデータを記載した一般図と、自然や産業などに焦点をあてた主題図(資料図)を多く掲載し、比較して考えられるようになっている。 ・巻頭・巻末の日本全図を3頁見開きにしているので、地形・自然災害など比較しやすい構成になっている。	・学習に活用できるデータを記載した一般図と、自然や産業などに焦点をあてた主題図(資料図)を多く掲載し、比較して考えられるようになっている。 ・世界地図の頁には、地図に示されている国の国旗や写真などの資料を掲載し、関連をもたせている。
4 表記・表現	○児童が親しみ進んで利用するようにするために、用語や記号などの表記や表現に、どのような工夫が見られるか。	・平野・山地・海溝など色使いがはっきりしていて、区別できるようになっている。 ・土地利用の様子は8種類に色分けされていて、地域の特色が読み取りやすくなっている。 ・都道府県名の表示は赤太文字で、白色の縁取りをしてはっきり見やすくしている。 ・日本の各地方の一般図には、各都道府県・地域の特産物がイラストで表記され、特徴がとらえやすいようになっている。	・平野・山地・海溝など色使いがはっきりしていて、区別できるようになっている。また、平地については、その土地利用がはっきりと分かるよう緑系の田・畑、赤系の果樹園には模様を入れ、土地利用の判別をしやすいようにしている。 ・土地利用の様子については、5種類に色分けしてあるため、大まかな地域の特色が読み取れるようにしている。
	○児童の課題意識を高めるために、文章、図表、写、統計資料等の表現については、どのような工夫が見られるか。	・一般図や主題図にイラストが多く描かれており、視覚からイメージできるように工夫されている。 ・地図中の文字や記号が大きくて見やすい。 ・図や写真の説明文などは、文節改行にして読みやすいようにしている。 ・地名はすべて、その他の文章などは4年生配当以上の漢字にふりがなをつけている。 ・日本と世界の主な山・川・湖・島を紹介する頁(P73～74:日本と世界の自然)では、写真やカラーで立体的なイラストを用いて見やすい工夫がしてある。	・世界の地図では、国や州ごとに色を変えて表現されており、国の大きさや形、位置が一目で分かるよう工夫されている。 ・土地の高さが分かるよう色別表現と陰影を使った表し方で立体感をもたせるようにしている。 ・「アメリカ合衆国」の地図では、州名や主な都市名が英語でも表記され、外国語活動との関連をもたせる配慮がある。 ・世界の地図の頁にある写真には、生活や自然の様子が織り込まれていて、地形や位置、気候からその様子がとらえやすいように配慮されている。解説を掲載し、興味・関心を持って主体的に地図活用できるようにしている。
5 体裁、使用上の便宜	○目次や見出し、索引など、使用上の便宜については、どのように配慮されているか。	・日本と世界の統計資料を巻末にまとめ、活用しやすい。 ・表紙は、4枚の写真(秋田の竿灯・有田川町の水田・瀬戸大橋・富士山山頂)から構成され、児童が親しみやすいようになっている。 ・目次は、42項目の見出しからなっており、見出しのトップにはイラストの記号が描かれ、どんな頁構成か見通しをもてるようになっている。 ・索引は、項目が色分けされ、A4の大きさを生かして、文字も大きく行間にも余裕があり見やすくなっている。	・表紙・裏表紙には未来の都市を思わせるイラストが描かれ、落ち着いた構成になっている。 ・目次は1頁の左上に位置づけられ、文字はやや小さめである。 ・目次は40項目の見出しからなっている。日本・世界・資料・索引の頁が色分けされ、見やすく工夫されている。 ・索引では、都道府県名や県庁所在地名、歴史地名は色つき文字で表示し見やすくなっている。